

いこいの村

太田幸子

題字 梅の木寮（ユニット型）

2012年（平成24年）9月20日発行

第364号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会
〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>



全員無事避難できました



職員の誘導で避難する利用者の皆さん

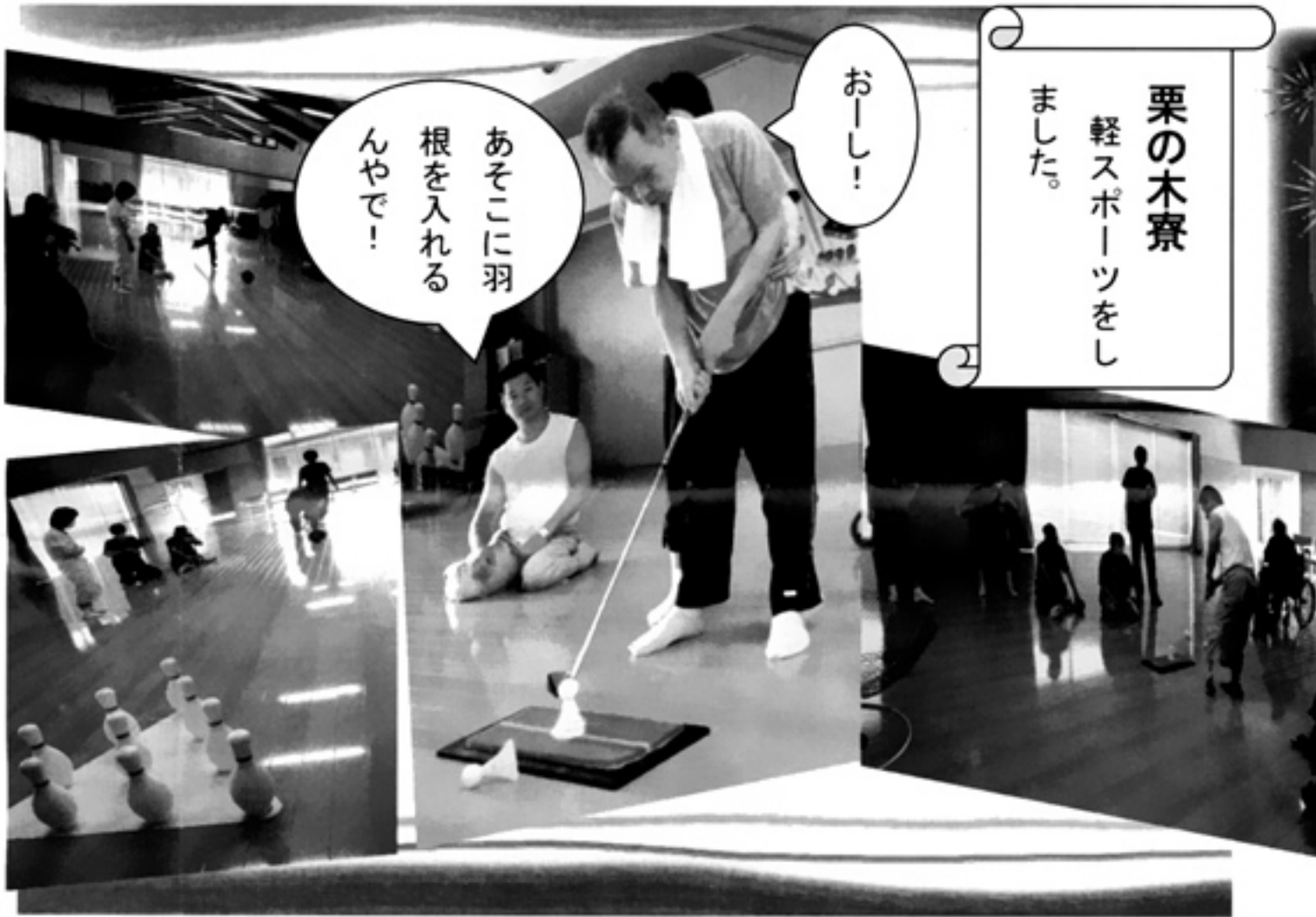
夜間避難訓練を実施しました！

八月七日、夜間避難訓練を実施しました。いこいの村では毎年四回避難訓練を行っており、そのうちの一回は夜間の訓練をしています。夜間は昼間に比べて、少ない職員で利用者を避難誘導しなくてはなりません。また管理宿直員にとっては唯一参加できる訓練なので、とても重要な訓練です。

訓練を通して防災設備や無線機の使用法、本部への報告、他部署への応援の方法など、実際に訓練して分かる問題点もいくつか見つかりました。いこいの問題を改善し、防災委員会を中心に利用者の方々が少しでも安全に避難ができるよう努めます。

いこいの村 防災委員

西村隆史



栗の木寮
軽スポーツを
しました。



いいの村 夏のひと時



梅の木寮
花火、ヨーヨー釣りを
しました。

きれいだなあ...

難しいなあ

とれた、とれた

ニニニつちかな?

シリーズ第七回

いこいの村30年を振り返って…

いこいの村・栗の木寮の初代家族の会会長として、二〇数年間お世話になった荒山正治様に、いこいの村の三〇年を振り返ったその思いを、お手紙にいただきました。

荒山様には、家族の思いや願いをまとめ、仲間の快適な生活空間を実現しようと施設運営を側面から支えていただきました。



家族の会初代会長 荒山正治様

「活」が送れるよう入所を決断したのは、今になってやっと正解だったと思えるようになりました。この間、施設役員の方々に、献身的なお世話をいただいたり、ご苦労をおかけしたと思いますが、今日があると感謝の念で一杯です。

息子が入所して三〇年。振り返ってみると家での生活を早や一〇年以上オーバーして、いこいの村での生活が完全に定着している状況ですが、入所当初は、親子とも住み慣れた生活から、施設入所という大きな変化に戸惑いも多く心配した日々が懐かしく思い出されます。

スタートは親子とも辛い思いはしましたが、本人の将来を考え自立して「安定した生

間の「健康問題」です。三〇年の経過は、仲間をはじめ家族含めて高齢化が進み、どう健康が維持出来るかが大きな課題です。「長期の病」が継続すれば、施設退所に発展する恐れもあり、「健康管理」については、継続して取り組んでいただけますよう、強く要望致します。本人が元気で頑張ってくれれば、親としても一日でも元気で、『頑張ろう』という目標を与えてくれていると思いますし、子どものためにも健康が維持できるように更に努力したいと願う今日この頃です。

「家族の会」も当初から一緒にさせてもらいましたが、家族が全国広範囲にあり、会合に参加してもらうのが難しく大きな悩みでしたが、家族の思いは皆同じであり、平成一〇年から五年間の『運営基金』拠出には、大きな力を発揮してもらい、施設運営に寄与出来たのは良い思い出となりました。

現時点での心配」とは、仲



いこいの村
・梅の木寮
施設長 奥本初実

九月二日、「第一五回全国高年難聴者の集い」が、いこいの村で開かれました。青森県から大分県まで、約二〇〇人が集いました。聞こえにやさしい環境と生き甲斐を感じる居場所づくりがテーマです。

開会に先立ち、参加の皆様にいこいの村・梅の木寮を案内しました。ユニット棟では、家庭的な雰囲気や、その人らしいしつらえの快適な個室に感嘆の声が上がりました。しかし、難聴の利用者が職員との筆談で会話を楽しむ様子を見たある参加者は、「私（の身近）には（筆談をして）くれるような老人ホームがなく、行く所がないわ」と言われたことが印象的でした。また、別の参加者は、「私も老人ホームにいないのだけど、聞こえないのいないのは私一人だけだから寂しいわ」と。

主催者あいさつで開会。来

賓の祝辞、記念講演ともに「聞こえなくても、高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる地域社会づくりを」と述べられました。その後「聴覚障害者地域活動支援センターでの取り組み」の報告では、参加者最高齢九八歳の京丹後市聴覚言語障害者地域活動支援センターを利用する男性は、「聞こえにくくても皆で集まると元気になる」と、張りのある声でお話されました。

今年も、各地で敬老会が開かれました。一九九五年（平成七年）からは、綾部市で開催される敬老会のいくつかの会場に、要約筆記者の派遣が始まりました。今年もいこいの村ではもちろん、七地区と松寿苑と老健あやべの敬老会に要約筆記者が付きましました。

いこいの村創立三〇年。京都府北部の難聴者を始め、全国の難聴者に支えられ、ともに歩んだ道のりを振り返る「集い」になりました。

いこいの村・梅の木寮

施設長 奥本初実

